

日本語と中国語の同形語の意味・用法の 差異について

—漢字熟語の使用に関する調査結果の分析—

許 恵 玉

1. はじめに

同文同種と言われている日本と中国は共に漢字を使用している。共通文字「漢字」の使用によって、両国の交流により便宜をもたらしているが、一方、同じ漢字熟語であるが、微妙な意味の差異、ニュアンスの差異によって、誤解を生じたりする場合もある。

例えば「愛人」という漢字が日本では「情婦」つまり隠し女という意味でよく使われ、あまり明るい意味ではない。しかし、中国では、「配偶者」という意味で、日本語の使い方とは大きく異なる。このような同形語の使い方を明らかにしないと、日本人と中国人のコミュニケーションの際に、誤解を生じかねないことがある。

荒川 (1979) は「日本人と中国人が『基本的』に同じ漢字を使っているということは、しばしば指摘されるように相互のコミュニケーションにおいて、大きな利点にもなれば大きな『落とし穴』にもなっている」と指摘している。

日本人も中国人も同じ「漢字」を使うことによって、意味及び使い方が同じ言葉は手間がかからず、習得できることは有難いことであるが、意味及び使い方が違う言葉まで、母語の文字通り理解しようとする傾向は両国のコミュニケーションの妨げになる可能性がある。

張 (2001) は「母語転移」に対して述べており、「母語転移とは学習者が母語以外の言語を勉強する際に、無意識的に母語のルールを運用して起こす現象」と論じている。更に、「母語と目標言語のルールが違うケースに見られるものを『悪い転移』」と述べ、「『悪い転移』は母語の不当の行為と理解できるため、『母語干渉』とも呼ばれる」としている。

本調査では、日本語と中国語の同形語の意味・用法の差異をめぐって、使用実態を調査すると同時に、中国の日本語学習者が日本語を勉強する際に、母語の干渉の影響を受けているのかを調査する。

2. 先行研究

金 (1987) は日本で暮らしているうちに、同じ漢字でも、日本と中国で意味の違うものがたくさんあるのに気づき、日本語を勉強しながら、日本語と中国語の違いを感じたものを調べ『同じ漢字でもこれだけ違う日本語と中国語』にまとめた。ただし、金 (1987) は意味の差異だけを示しており、使用実態についての調査は実施していなかった。本研究は、日本語と中国語の同形語の意味、用法についてそれぞれ日本人と中国人に調査を行い、データをもとに分析する。

陳 (2009) は、日本語と中国語の同形語の中の「先生」について調査研究を行った。調査法

(2)

としてマインドマップによるアンケート調査法を使用し、それぞれ日本人と中国人を対象に、得られたデータをもとに、日本語と中国語の差異を対象分析した。陳（2009）は、質的研究と量的研究を兼ねているマインドマップ調査法を用いたため、数多くの語彙について調査するのは難しく、一語に絞っていた。本調査は量的研究の二者択一のアンケート調査法を用い、一語だけではなく、複数の単語について調査する。

3. 調査方法

アンケート調査法を用い、それぞれ日本人と中国人を対象に、調査を行った。設問は20問に設定し、主に金（1987）の『同じ漢字でもこれだけ違う日本語と中国語』と『日中辞典』から抜粋したものである（別添資料を参照）。括弧内に漢字熟語の選択肢を作り、一方の熟語は日本語の文章から、もう一方は日本語の意味に対応する中国語の熟語を摂取している。日本人と中国人から回収したアンケート調査を統計し、比較分析する。本稿では、設問10まで検討する。

4. アンケート調査の概要

実施期間：2009年12月14日～2010年4月20日

本調査の全回答者数は1050名であり、そのうち有効回答が1011名であった。本調査は、性別、年齢、国籍のいずれかを空欄にしたものと設問20問のうち、3問以上を空欄にしたものは無効回答とした。設問は主に中国人が編集した本から抜粋してきたものであり、日本人から「どちらもしっかりこない」のような記述が得られたため、3問の空欄までは有効回答にした。国籍別の内訳を以下表1に示す。

表1. 国籍別内訳（単位：人）

日本	中国	計
837	174	1011

本調査は、日本で行い、日本人の有効回答が837、中国人の有効回答は174が得られた。

日本人の性別と中国人の性別の内訳を以下表2に示す。

表2. 日本人と中国人の性別内訳（単位：人）

	男性	女性	計
日本人	357	480	837
中国人	62	112	174

性別の内訳は、いずれも男性のほうが少なく、女性のほうが圧倒的に多かった。

日本人と中国人の年代別の内訳を以下表3に示す。

(3)

表3. 日本人と中国人の年代別内訳 (単位: 人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
日本人	207	408	57	95	54	16	837
中国人	0	165	3	2	0	4	174

本調査は山口大学を中心に行ったため、日本人も中国人も20代が最も多く、中国人は20代の留学生が、ほぼ9割以上を占めている。

日本人と中国人の職業別の内訳を以下表4に示す。

表4. 日本人と中国人の職業別内訳 (単位: 人)

	学生	社会人	計
日本人	553	284	837
中国人	165	9	174

職業別では、日本人も中国人も学生が圧倒的に多かった。

5. アンケート調査の集計結果

日本人と中国人の設問1～10の集計結果を以下の表5に示す。表における百分率はそれぞれ日本人と中国人の全回答者数に対する比率であり、表示では、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表している。設問の選択肢の前者をAで示し、後者をBで示す。前者と後者を両方選択したものはA+Bで示し、どちらも選択していないものはCで示す。

表5. アンケート調査の集計結果

	日本人 (837名)								中国人 (174名)							
	A	百分率	B	百分率	A+B	百分率	C	百分率	A	百分率	B	百分率	A+B	百分率	C	百分率
設問1	52	6.2	753	90.0	16	1.9	16	1.9	127	73.0	46	26.4	1	0.6	0	0.0
設問2	782	93.4	41	4.9	11	1.3	3	0.4	73	42.0	81	46.6	19	10.9	1	0.6
設問3	124	14.8	379	45.3	334	39.9	0	0.0	21	12.1	119	68.4	34	19.5	0	0.0
設問4	681	81.4	100	11.9	51	6.1	5	0.6	114	65.5	53	30.5	7	4.0	0	0.0
設問5	25	3.0	742	88.6	70	8.4	0	0.0	110	63.2	57	32.8	6	3.4	1	0.6
設問6	208	24.9	264	31.5	364	43.5	1	0.1	15	8.6	141	81.0	17	9.8	1	0.6
設問7	223	26.6	451	53.9	163	19.5	0	0.0	94	54.0	61	35.1	19	10.9	0	0.0
設問8	217	25.9	491	58.7	127	15.2	2	0.2	60	34.5	96	55.2	18	10.3	0	0.0
設問9	1	0.1	835	99.8	1	0.1	0	0.0	15	8.6	151	86.8	8	4.6	0	0.0
設問10	55	6.6	770	92.0	7	0.8	5	0.6	86	49.4	84	48.3	4	2.3	0	0.0

表5の百分率を以下のグラフで示す。

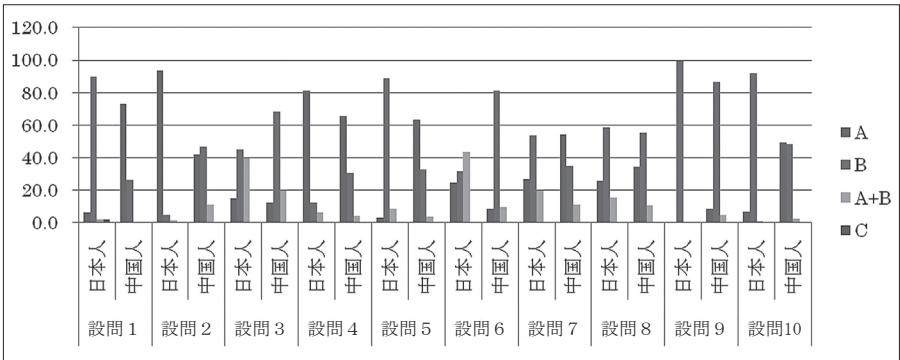


図1. アンケート調査結果の全体のグラフ

全体から見ると設問3、設問8と設問9の回答率が日本人も中国人もBが最も多く、設問4が日本人と中国人共にAの選択率が最も多い結果となっていた。そのほかには、日本人と中国人の回答が大きく異なる結果となった。設問1の日本人の回答率はBのほうが9割を占めているのに対して、中国人はAの選択率が7割以上を占めている。設問2は日本人のAの選択率が9割を超えているが、中国人はAとBが両方とも4割以上を占める結果となった。設問5と設問7も日本人と中国人のAとBの選択率が逆になっており、設問6と設問10も日本人と中国人の回答が大きく異なる結果となった。

6. アンケート調査の集計結果に対する分析

6-1. 設問1：「公共の（A場合・B場面）では秩序を守るべきだ」の分析

設問1の集計結果を以下表6と図2に示す。

表6. 設問1の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	6.2	90.0	1.9	1.9
中国人	73.0	26.4	0.6	0.0

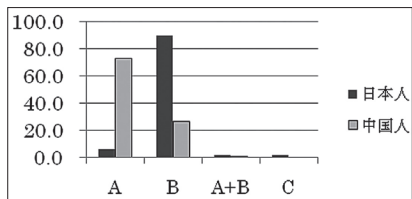


図2. 設問1の集計結果

設問1の集計結果から分かるように、日本人の回答はBの「場面」の選択率が90.0%で最も多いのに対して、中国人はAの「場合」の選択率が73.0%で最も多かった。設問1は、金（1987）から抜粋してきたものであり、日本語の原文が「公共の場面では秩序を守るべきだ」である。この文章に対する中国語の訳が〈在公共场合要遵守秩序〉である。本研究では、日本語の表現と中国語の表現が同形のものであり、区別しやすくするために、日本語の表現を「 」で括り、中国語の表現を〈 〉で括ることとする。

設問1は金（1987）が日本語と中国語の「場合」の区別を述べる時に使われた例文であり、その区別について日本語の「場合」は「時、事情、事のわけ」の意味で使われるが、中国語の〈場合〉は「場、場面（環境）をいう」と指摘している。

(5)

本調査の結果、日本人の9割が「場面」を選択し、金(1987)の例文と一致したが、中国人の回答は「場合」のほうが「場面」より46.6ポイントも上回り、金(1987)の解釈から見ると中国人が母語の干渉を受けていることが分かる。

6-2. 設問2:「公開の(A場・B場合)では話に気をつけなければならない」の分析

設問2の集計結果を表7と図3に示す。

表7. 設問2の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	93.4	4.9	1.3	0.4
中国人	42.0	46.6	10.9	0.6

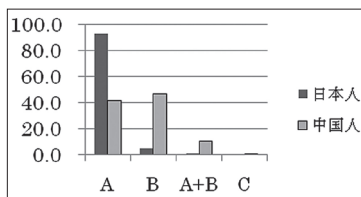


図3. 設問2の集計結果

設問2も、金(1987)の「場合」の例文から抜粋したものであり、日本語の原文は「公開の場では話に気をつけなければならない」で、その中国語の訳文が〈在公开场合说话要注意〉である。本調査の結果日本人の9割以上がAの「場」を選択し、金(1987)の例文と一致した。しかし、中国人の回答はBの「場合」の選択率が「場」よりやや高い結果であり、A+Bの「両方使える」の選択率を合わせると、57.5%で過半数を占めている。設問2からも中国人の母語の干渉を受けていることが見られた。中国で場所を表す〈公共场合〉〈公开场合〉などは一語のように使われており、日本語の「場合」との区別を明確にしないと中国人が母語の干渉を受けやすい例が、設問1と設問2のような場合である。

6-3. 設問3:「文章の内容を充分(A把握・B理解)する」の分析

設問3の集計結果を表8と図4に示す。

表8. 設問3の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	14.8	45.3	39.9	0.0
中国人	12.1	68.4	19.5	0.0

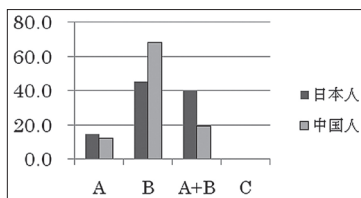


図4. 設問3の集計結果

設問3は、金(1987)の「把握」の解釈の例文から抜粋してきた文章であり、日本語の原文は「文章の内容を充分把握する」である。この文章の中国語の訳が〈充分理解文章的内容〉〈掌握文章的内容〉である。図4の調査結果から分かるように、日本人からの回答は金(1987)の文章とは違って、「把握」より「理解」のほうが30.5ポイントも上回っていた。Bの「理解」の選択率が最も多かったが、A+B両方使えると思う回答者も39.9%で、Aの「把握」の回答も二桁で、無視できない数字であった。

日本人の結果に対して中国人からの回答はBの「理解」のほうが68.4%を占め、他の選択肢より圧倒的に多い結果となった。金(1987)は「把握」について、日本語では抽象的な内容、事情などをしっかり理解する意味に使うが、中国語では〈把握自己的命运(「自分の運命を自

(6)

分の手でしっかりとつかむ)) のように抽象的な物事をつかむ場合と、〈他考北京大学有把握吗? (「彼は北京大学に合格する見込みはあるかね)〉〈上翻译课有把握, 讲文学概论没把握(「翻訳の講義は自信があるが、文学概論は自信がない)〉のように何かをするのに成功する可能性、見込み、自信の意味で使われると指摘している。

中国語の〈把握〉には「理解する」の意味が含まれていないため、日本語の「把握」の意味を明確に認識していない日本語学習者は「把握」より日本語と中国語の意味が共通する「理解」を選択するケースが多くなると考えられる。

『中日大辞典』では〈把握船舵 (「船の舵をしっかりと握る)〉のように、具体的なものを「握る」の意味で作られた例文もあったが、金 (1987) は「現在日常会話の中には具体的な意味の使い方はめったに現れない」と指摘している。

6-4. 設問4: 「実態を (A把握・B掌握) する」の分析

設問4の集計結果を表9と図5に示す。

表9. 設問4の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	81.4	11.9	6.1	0.6
中国人	65.5	30.5	4.0	0.0

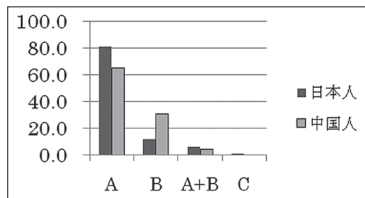


図5. 設問4の集計結果

設問4は『日中辞典』から抜粋してきたものであり、「把握」の「理解すること」の意味の例文である。設問4の日本語の文章は「実態を把握する」で、中国語の訳が〈掌握实情〉である。本調査で、8割以上の日本人が「把握」を選択した。中国人の回答もAの「把握」が最も多く、65.5%であったが、Bの「掌握」の選択率も30.5%でかなり多い結果となっていた。

「掌握」の『広辞苑』による意味解釈は「掌中に握ること。手に入れること。わがものとする事」であり、「実権を一手に掌握する」という例文が掲載されている。つまり「掌握」は抽象的なものを「手に入れる」の意味で、「理解する」の意味はない。ここから、設問4の文章で「掌握」は不適切であると言えるが、本調査では、2割弱の日本人が不適切な選択をしたことになる。中国人の回答者は3割以上がBの「掌握」を選択したが、中国語の〈掌握〉は意味が日本語より広く、「手に入れること」の意味以外にも「把握する」「マスターする」の意味が含まれており、中国人の回答者は母語の干渉を受けて、日本人より「掌握」の選択率が高くなったのではないと思われる。

6-5. 設問5: 「会議は (A円満・B円滑) にとり行われた」の分析

設問5の集計結果を表10と図6に示す。

(7)

表10. 設問5の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	3.0	88.6	8.4	0.0
中国人	63.2	32.8	3.4	0.6

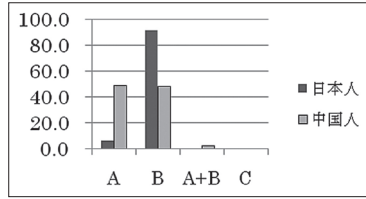


図6. 設問5の集計結果

設問5は『日中辞典』から抜粋してきたものであり、日本語の原文が「会議は円滑にとり行われた」であり、中国語の訳が〈会议圆满地结束了〉であった。本調査の結果から分かるように日本人の回答はBの「円滑」が88.6%で最も多い結果に対して、中国人はAの「円満」が63.2%で最も多い結果となった。設問5からも中国人の日本語学習者が母語の影響を受けていることが分かる。

金(1987)は、「円滑」について日本語では「物ごとが滞らず、すらすらと進むこと、順調なことをいう」と述べており、それに対して中国語の〈圆滑〉(中国語では「円」ではなく、〈圆〉を使う)は「(人の言動に)角がない、あたりが柔らかくて無責任である、八方美人の意で、ややけなすニュアンスがある」と述べている。

中国語で「物事が滞らず、スムーズに進む」場合には〈圆满〉が使われているため、中国人からの回答は「円満」が多い結果になったと思われる。金(1987)の「円滑」に対する解釈から分かるように、中国語では〈圆滑〉が人柄に使われているが、日本語では「円満な夫婦」「円満な人柄」のように「円満」が人柄に使われている。また、中国語で使われている〈圆滑〉はマイナスイメージで使われているが、日本語の人柄に使われている「円満」は「調和が取れていて、穏やかな」意味で、プラスイメージに使われている。

6-6. 設問6:「旅行に行けない(A事情・B理由)を話す」の分析

設問6の集計結果を表11と図7に示す。

表11. 設問6の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	24.9	31.5	43.5	0.1
中国人	8.6	81.0	9.8	0.6

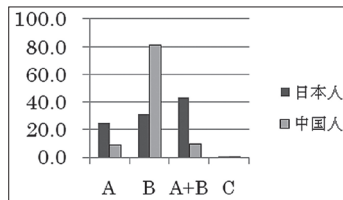


図7. 設問6の集計結果

設問6の日本人の回答はA+Bの両方使えるが最も多く43.5%であった。選択肢Aの「事情」とBの「理由」も回答率が高く、それぞれ24.9%と31.5%で両者の差もあまり見られなかった。しかし、中国人の回答はBの「理由」が圧倒的に多く、81.0%もあった。AとA+Bの選択はそれぞれ1割弱で、日本人との回答とは大きく異なる結果となった。

本設問は、金(1987)の「事情」の解釈の例文から抜粋してきたものであり、日本語の原文が「旅行に行けない事情を話す」で、中国語の訳が〈讲明不能去旅行的理由〉であった。

金(1987)は、日本語の「事情」は「事の次第、物ごとがそうなる、またはなった細かな様

子、わけである」と述べており、「旅行に行けない事情を話す」と本調査の設問7の「僕はずっと前から中国の事情を知るべきだと思った」の例文は中国の古語と同じ用法であると指摘している。現代中国語には〈事情是这样的（「事情はこうなのだ」）〉のように「人類の生活上のあらゆる活動およびそれを取りまくあらゆる社会現象をさす。つまり、事、事柄、用事のように使うのが普通である」と述べている。

本設問は選択肢のどちらでも意味が通じる文章である。中国人は母語の影響で、「理由」の選択率が高くなることが考えられるが、日本語の文章に使われていた「事情」に対する日本人の選択率が低かったのは予想外であった。

6-7. 設問7：「僕はずっと前から中国の(A事情・B状況)を知るべきだと思った」の分析

設問7も金(1987)から抜粋してきたものであり、日本語の文章が「僕はずっと前から中国の事情を知るべきだと思った」であり、中国語の訳文が〈我一直认为应该了解中国的情况〉であった。本アンケート調査で使われたのは「状況」であり、「状況」と「情況」の差異は多少あるだろうが、本稿では言及しないことにする。

設問7の集計結果を表12と図8に示す。

表12. 設問7の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	26.6	53.9	19.5	0.0
中国人	54.0	35.1	10.9	0.0

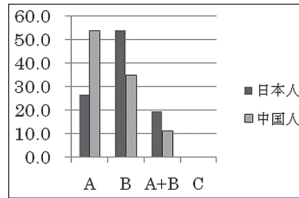


図8. 設問7の集計結果

設問7は予想に反して日本人の回答がBの「状況」の選択率が最も多く、Aの「事情」より27.3ポイントも上回った。しかし、中国人の回答はAの「事情」の選択率が54.0%で最も多い結果となり、次いでBの「状況」で35.1%であった。

本設問は設問6と同じく日本語と中国語の「事情」についての問題である。選択肢のどちらでも意味が通じる文章であるが、本調査で中国人の「事情」の選択率が高くなったのは「日本事情」「中国事情」が日本で日本語を学んでいる中国人にとって、一語化して用いられており、普段からよく耳にするためではないかと思われる。

6-8. 設問8：「(A検討・B討論)の結果、二つの意見が出た」の分析

設問8の集計結果を表13と図9に示す。

表13. 設問8の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	25.9	58.7	15.2	0.2
中国人	34.5	55.2	10.3	0.0

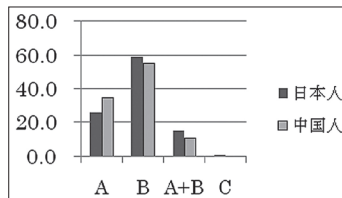


図9. 設問8の集計結果

本設問は金(1987)から抜粋してきたものであり、日本語の文章が「検討の結果、二つの意

見が出た」で中国語の訳が〈经过讨论，出来两种意见〉である。

この問題も予想に反して、日本人の回答がBの「討論」のほうが最も多く、58.7%で、Aの「検討」の選択率より32.8ポイントも上回っていた。中国人もBの「討論」の選択率が55.2%で最も多く、次いでAの「検討」で34.5%であった。

「検討」について金（1987）は次のように述べている。

日本語の「検討」は物ごとをいろいろな面からよく調べ、それでいいかどうか考える意味で、中国語も昔（今は主に書き言葉）は日本語と同じようなニュアンスがあった。〈資料人員把历年的材料都准备好，科研人员可以随时检讨（「資料室の人は例年のデータを揃えておいて、研究員がいつでも検討することができる」）。しかし、現代中国語、特に1949年以降の中国では、主に本人あるいは部門の思想上、工作上、生活上の欠点と過ちを検査し、深く反省する意味で使われる。

上記から現代、日本語と中国語の同形語「検討」は意味用法が異なり、その差異を明確にしないと中国人にとって「検討」を使いこなすのは難しいことであろう。そのため、本調査の結果のように、中国人の「討論」に対する選択率が高くなったのではないと思われる。

6-9. 設問9：「(A検討・B反省)の色があまり見えない」の分析

設問9の集計結果を表14と図10に示す。

表14. 設問9の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	0.1	99.8	0.1	0.0
中国人	8.6	86.8	4.6	0.0

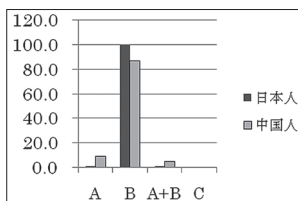


図10. 設問9の集計結果

本設問も、金（1987）から抜粋しており、日本語の文章が「反省の色があまり見えない」で中国語の訳が「检讨得不够深刻」であった。日本で「反省の色」は一語のように使われているため、Bの選択率が高い結果となったのではないと思われる。

しかし、中国語の意味で理解すると〈検討〉も〈反省〉も「自己批判する」意味で、混乱しやすい問題であると思われるが、調査結果から分かるように8割以上の中国人がBの「反省」を選択し、日本人の結果と13ポイントの差しか見られなかった。

6-10. 設問10：「この論文の中味は一体どうか（A評判・B検討）して欲しい」の分析

設問10の集計結果を以下表15と図11に示す。

表15. 設問10の集計結果

	A	B	A+B	C
日本人	6.6	92.0	0.8	0.6
中国人	49.4	48.3	2.3	0.0

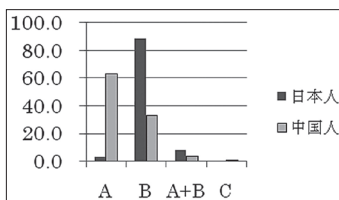


図11. 設問10の集計結果

設問10も金(1987)から抜粋してきたものであり、日本語の文章が「この論文の中味は一体どうか、検討して欲しい」で、中国語の訳文が〈这篇论文质量到底如何, 请您评判一下〉である。

設問10は日本人の回答と中国人の回答が異なり、日本人はBの「検討」のほうが、最も多く、9割以上を占めている。しかし、中国人はAの「評判」とBの「検討」がそれぞれ49.4%と48.3%であまり差が見られなかった。

ここから、設問10は中国人が母語の干渉を受けて、「評判」の選択率が高くなったことが分かる。

金(1987)は日本語の「評判」について次のように述べている。

(1) 世間のとりざた、うわさ。『広辞苑』第4版はなかなか評判がいい。

(2) 名高いこと。これが今、日本で評判の小説で、映画にもなりました。

(3) 批判して是非を判定すること

と辞書にはあるが、私がつきあった範囲の日本人からは、(3)のような使い方を聞いたことはない。あるとしたら、中国語の使い方とかなり近くなる。

これに対して、中国語の〈評判〉は「勝敗、優劣、是非を判定すること(金1987より)」の意味で〈我们之间的是非, 请您评判评判〉(「非が我々のうちのどちらにあるのか、貴方に判断してもらいたい」)のように使うと指摘している。

7. 考察

設問1と設問2は同じ「場合」の解釈の中の例文で、類似している文章である。しかし、中国人の「場合」に対する選択率が設問1で73.0%、設問2で46.6%で26.4ポイントの差も見られた。類似している問題なのに、これくらいの差が見られたのは「場面」と「場」の選択肢に関係があると思われる。

「場面」はsceneで「(劇・小説などの)場面、シーン≪時・場所・状況などを含めたもの≫」で「場」はplaceで「場所、ところ;(ある用途に使う)場所」である(『ジーニア和英辞典』より)。これから分かるように「場面」は「場所を含めたシーン」であるのに対して「場」は「場所」を表し、「場」のほうがより場所性が強い表現である。

日本語では「場」が「場面」「場合」より意味が広く、「場」が上位語で「場面」と「場合」が下位語であるが、中国語では〈場合〉が最も広く、〈場面〉と場所を表す「場(中国語では〈場所〉という)」意味も含めているため、〈場合〉が上位語で〈場面〉と〈場所〉が下位語になる。中国人の回答者はこの関係を認識していないため、本調査のような結果が得られたと思われる。

設問3の「文章の内容を充分(把握・理解)する」の調査結果は金(1987)が支持されなかった。数人の日本人から「把握」は「大まかに知っておく」場合によく使われるのに対して、「理解」は「深く中味まで知る」ということで、本文章は選択肢の前に「充分」という言葉があるため、「理解」を選択したという記述が寄せられた。また「把握」より「理解」のほうが、守備範囲が広く、本調査のような結果が得られたのではないかと思われる。

設問6の「旅行に行けない(事情・理由)を話す」の調査結果と設問7の「僕はずっと前から中国の(事情・状況)を知るべきだと思った」も金(1987)とは異なる結果となった。設問

6と設問7について回答者からそれぞれ次のような記述が得られた。

設問6について：

「理由」と「事情」は意味が近い言葉で、どちらでも間違いではないので、A+Bの票が一番多いことには納得できます。しかし、この場合、「旅行に行けないわけ」というようにイメージすると、「事情」というよりも「理由」というほうがしっくりくるのかなと思いました。

設問7について：

設問7に関しては、「事情」を使うのは間違いではないけれど、すこしおかしいのではないかと思いました。もし「事情」を使うのならば、例えば、「僕はずっと前から中国の政治的な事情を知るべきだと思った」などと、「中国の」と「事情」の間に何かこなければ、しっくりこないと思いました。なので、この場合では、「状況」がくるほうが適当だと思いました。

「事情」について広辞苑には「物事がある状態になった、細かな様子、次第」と掲載されている。「理由」と比べ、「事情」はより細かな様子、他人には知られたくないプライバシーなども含まれているため、設問6のような場合、個人情報重要視されている日本社会では、「事情」より「理由」のほうがより使われやすいのではないかと思われる。

設問8の「(検討・討論)の結果、二つの意見が出た」の調査結果も金(1987)が支持されなかった。意味から見ると、「検討」は「調べたずねること。詳しく調べ当否を考えること」で、「討論」は「互いに議論をたたかわすこと(広辞苑より)」という意味で、どちらでも通じるが、「討論」の選択率が多くなったのは、文章の後半「二つの意見が出た」の影響ではないかと思われる。「二つの意見が出た」となっているため、「複数の人で話し合い、意見をたたかわす」結果であるとのニュアンスが強く感じられたのではないかと思われる。

8. まとめと今後の課題

本報告では、紙幅の都合上、アンケート調査20問のうち、設問10までを比較検討した。設問は、主に金(1987)と日中辞典から抜粋してきたものであり、選択肢の片方は日本語の文章から、片方は中国語の訳文から摂取して作った調査であった。10問のうち、日本人と中国人の回答が一致したと言えるのは設問3と設問4、設問8と設問9の4問であり、日本語の漢字熟語の選択肢と中国語の訳文の熟語の選択率が逆になった設問が設問1、設問2、設問5、設問7、設問10であった。10問のうち、5問が逆となった結果で、中国人の日本語学習者がかかなり日本語の漢字熟語を母語のルールそのまま理解しようとする傾向が見られた。

本調査で『日中辞典』から抜粋してきたものが2問である以外は全て金(1987)から抜粋してきたものであり、10問のうち、結果が予想外だったのが、設問3と設問6、設問7と設問8であった。この4問は全て金(1987)からの問題であり、日本人から得られた回答とは異なり、支持されなかった結果となった。支持されなかった4問については今後の課題としてより深く検討していきたい。

また、今後の課題として、続きの10問を比較分析していきたい。

【参考文献】

愛知大学（1987）『中日大辞典』大修館書店

荒川清秀（1979）「中国語と漢語」『愛知大学文学論叢』第62輯 愛知大学文学会

金若静（1987）『同じ漢字でもこれだけ違う日本語と中国語』学生社

新村出（2005）『広辞苑』第5版 岩波書店

小学館（1987）『日中辞典』北京・商務印書館

大修館書店（2004）『ジーニアス和英辞典』第2版

張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』スリーエーネットワーク

陳仲鵬（2009）「日本語と中国語の同形語〈先生〉について—マインドマップ調査による意味機能分析—」『山口国文』第32号 山口大学人文学部国語国文学会

（キョ・ケイギョク）

【別添資料】

アンケート調査

以下の文章の中、適切だと思う単語を丸で囲んでください。両方使えると思う場合は、両方丸をつけてください。

1. 公共の（場合・場面）では秩序を守るべきだ。
2. 公開の（場・場合）では話に気をつけなければならない。
3. 文章の内容を充分（把握・理解）する。
4. 実態を（把握・掌握）する。
5. 会議は（円満・円滑）にとり行われた。
6. 旅行に行けない（事情・理由）を話す。
7. 僕はずっと前から中国の（事情・状況）を知るべきだと思った。
8. （検討・討論）の結果、二つの意見が出た。
9. （検討・反省）の色があまり見えない。
10. この論文の中味は一体どうか（評判・検討）して欲しい。
11. 病気になったおばあちゃんを（看病・看護）する。
12. どんなに苦しくてもやりぬく（覚悟・決心）があります。
13. すべての人が（自覚・覚悟）を高めなければならない。
14. 彼女達は性格は違うが、同じように高尚な（品質・品性）を持っている。
15. すべてあの人に（依頼・委託）していますよ。
16. 魚の（片面・一面）が焼けた。
17. いらなくなった新聞を（処分・処理）する。
18. 中国産のバイオリンが世界市場に（進入・進出）する。
19. この問題は（当面・一時）解決できそうもない。
20. 彼は語学の（素質・天分）がある。

本アンケート調査に対する感想、意見があれば自由にご記入ください _____

性別（男・女） 年齢（10代・20代・30代・40代・50代・60代以上）

職業（学生・社会人） 国籍（ ） 出身地（ ） 都道府県

ご協力ありがとうございました。